

床下浸水後の家屋の対応について（補足）

～床下の消毒・石灰の使用～

床下浸水の後の処理については、1～3の手順をしっかりと行ってください。

1. 床下の確認 2. 洗浄（汚泥やゴミの除去） 3. 乾燥（非常に重要です）

- 消毒は感染症等の発生を防ぐために行うものです。
- 家屋を守るためには上記3つの手順を行い、カビやにおいの発生を防ぐことが重要。生活空間ではない床下は原則、消毒不要です。

「原則」じゃないのはどんな時？

▶例えば…

し尿・糞便や汚泥などが床下に流れ込み、現在も臭いがするなどの状況によっては、1～3の手順後、床下も消毒を行うこともご検討ください。
※まずは泥やごみを取り除き、洗浄・乾燥を行った後でないと消毒効果は発揮できません。

上記の場合や、原則不要なのは分かったけれどやっぱり気になるので消毒したい場合は？

▶床下の消毒によく使われる消毒剤（塩化ベンザルコニウム）は…

- ・ 逆性石けん「オスバン S」が代表的な商品名（薬局・ドラッグストア等で入手可能）
- ・ 床下には100倍に薄めて噴霧する（じょうろで撒くなど）
- ・ **必ずゴム手袋やゴーグルをして作業を行ってください。**

⇒ 消毒後もカビ等を防ぐためには徹底的に乾燥させてください



昔、水害後は石灰をまいたと思うけれど？

消毒を目的として消石灰をまくことは近年行っていません。

消石灰は、強アルカリ性であり肌や目に触れると炎症を起こします。

まいた消石灰が飛散して目に入ると大変危険です。

目に入った場合、失明する恐れがあるため、すぐに大量の水で洗い流し、医療機関を受診しましょう。



厚生労働省
リーフレット

浸水した家屋を清掃される方へ

感染症予防のためには
清掃と乾燥が
最も重要です

屋外※では消毒は原則不要です
※物に床下や壁など

消石灰の取扱いに注意

肌や目を痛めるため、
使用には十分な注意が必要です

消石灰は、アルカリ性であり、肌や目に触れると炎症を起こします。特に、まいた消石灰が飛散して目に入ると、大変危険です。目に入った場合、失明する恐れがあるため、すぐに大量の水で洗い流し、医療機関を受診しましょう。



消石灰を素手で触ったり、目に入れないよう注意